

令和5年第10回教育委員会会議録

1 日時

令和5年6月28日（水）10時00分

2 場所

教育委員会会議室

3 出席者

教育長：石橋正信

教育委員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：福田教育次長、木下理事

中尾総務部長、峯川職員部長

宮川生涯学習課長、野口職員課長、横畠労務・給与課長、杉山経済観光文化局博物館運営課長

4 会議事項

(1) 付議事項

付議案第41号 附属機関委員の人事について

付議案第42号 附属機関委員の人事について

付議案第43号 事務局職員の人事について

(2) 臨時代理報告事項

臨時代理報告第7号 福岡市教育委員会の任命に係る単純な労務に雇用される職員の仕事に専念する義務の特例に関する規程の一部改正案

(3) 協議・報告事項

協議・報告ア 社会教育委員会議の研究調査について

5 開会

教育長開会を宣告 10時00分

付議案第41号から第43号までは人事に関する案件のため、議決により非公開とされた。

6 付議事項

▼付議案第41号 附属機関委員の人事について

宮川課長より説明
《原案どおり可決》

▼付議案第42号 附属機関委員の人事について
杉山課長より説明
《原案どおり可決》

▼付議案第43号 事務局職員の人事について
《原案どおり可決》

7 臨時代理報告事項

▼臨時代理報告第7号 福岡市教育委員会の任命に係る単純な労務に雇用される職員の職務に専念する義務の特例に関する規程の一部改正案

横畠課長より説明
〔質疑等〕

(原委員)

○ 仮に新型コロナウイルスワクチン接種との関連性が高いと認められる症状が出た場合はどうなるのか。

(横畠課長)

○ 今後の取扱いは、ワクチン接種を受ける場合と副反応が出た場合で分かれる。ワクチン接種を受ける場合は、年休を取得することになり、副反応が出た場合は、年休又は病気休暇を取得することになる。

8 協議・報告事項

▼協議・報告ア 社会教育委員会議の研究調査について

宮川課長より説明
〔質疑等〕

(石橋教育長)

○ 確認だが、社会教育委員の集まりの中で、これを調査研究しようという発案がなされ、それを検討されてまとめたものを福岡市の施策に生かしてもらおうよう提言するものになるのか。その際に、社会教育の主管として、教育委員会会議に報告しているということか。

(宮川課長)

○ そのとおりである。

(石橋教育長)

- 中身はボリュームがあるが、画期的なものやトピック的な内容のものはあるか。

(宮川課長)

- ビジョンの構成としては、前半は、生涯学習とは何かという基本的な内容を、現代的な課題も踏まえ整理されており、実際に現場で生涯学習に携わっている方々が、自分たちの活動をどのように捉え直すかといった教科書的な役割も果たすことができる内容になっている。後半は、前半での整理を踏まえ、福岡市に関する課題や方向性について示している。社会教育委員会議の中でも話題になったが、生涯学習、学びといったときに、狭い意味で捉える方が多くおられるが、実際は、例えば公民館でよく行われているサロンなど、地域住民が集まっておしゃべりする場の中にも学びがある等、今までの学習イメージをもっと広げていこうという提案が根底にあると考える。

(町委員)

- 資料2の9ページに「要求学習」と「必要学習」とある。要求学習というのは、自分たちがやりたいということで学ぶ人が多いが、必要学習については学ぶ人にとってニーズがあまりないというが、具体的にはどういうものを要求学習、必要学習というのか。

(宮川課長)

- 公民館などで行われる講座を例にとると、市民のサークル活動などは、利用者ニーズが大きく、例えばダンスをやりたい人たちが集まり、先生を呼んでサークルとして成立する、こういったものは要求学習といえるが、一方で、公民館や地域の団体が主催する人権や環境といった社会課題に関する講座など興味として自分の中にもっている人が多いわけではないとしても、学ぶことが必要であるような学習、そういったものも学習機会として提供していく必要がある。

(町委員)

- 私は福祉局が実施しているアラカンフェスタの委員の一人であるが、ああいったものは要求学習になるのか、必要学習になるのか。社会教育の一環ということになるのか。

(宮川課長)

- そういった催しも学習、学びの側面を持っていると思われる。ある意味では要求学習であり、必要学習であるという双方の側面を持つと思うが、そういった催しを通じて同年代の方が集まってつながりを持つことで、次の学びにつながることもあると考えられる。要求学習と必要学習の部分については、企画者が思うほど参加者が集まらなかったときなどの悩みに関する社会教育委員会議での議論から記述が追加された経緯がある。提言では、もっと来てほしいのになかなか来てもらえない、どうすればよいかというときに、要求学習であれば、まずはちよっ

と話を聞いてみようと思ってもらえるような工夫をどうするか、という観点を持つとよいといった提案がなされている。

(町委員)

- 研究調査経過報告では、全体会を4回、分科会を7回もされておりすごく活発な会議だと思うが、所要時間はだいたいどのくらいで、主に委員の中のどなたが一番イニシアチブをとられているのか。

(宮川課長)

- 分科会は各回2時間程度で、ヒアリングも1回あたり同様の時間で行われた。また、分科会と分科会の間にはメールでの議論なども行われていたため、分科会委員の方々には、会議での時間以上にかかわっていただいている。また、提言の作成に当たっては、社会教育の研究者である3名の委員が分担して執筆いただき、それぞれの担当部分についても、各委員が互いに意見や修正などを加えながら今のかたちになっている。今回座長を務められたのは中村学園大学の圓入先生である。

(徳成委員)

- 福岡市の大きな特色である1小学校校区1公民館というのは、全国的にも画期的なもので、地域コミュニティの拠点として具体的な実践が各校区、各公民館単位で行われてきた。この社会教育委員会の中では、以前にも地域間の格差や活動の平準化の問題、あるいは地域の特色に応じた活動の模索などの課題について調査研究が行われた経緯がある。社会教育委員会の中で、研究者を中心に、実態調査を踏まえた上で報告書を作成されることは意味深いことであり、福岡市の特色を生かして今後ますます発展させるためには欠かすことができない提言として読ませていただいた。これまでワークショップも重ねられてきたようだが、これらの取り組みによって館長や主事の意識も高まり、活動が活発化したと聞く。社会教育活動がますます進んでいくことを期待している。

(武部委員)

- 公民館等の講座などに呼ばれて話をすることがあるが、どこの主催で呼ばれているのか分からないことがある。子育て系のものが多いが、生涯学習と言われて、いったいどういう人が来るのか分からないまま、いざ話し出したら、とても熱心な方が、義務ではなく自分で学習したくて来られている。話す側の立場からすると、どういった方が来られるのか、どこでこのことを知って集まったのかが分からないと、みなさんにも私の話が伝わりにくいのではないかと思う。先ほど人が集まらないという話もあったが、興味があるところにピンポイントで出席される方もいるので、もしかしたらテーマが興味のないものだったということもあるかもしれないが、どうやってこの会が開催されることになって、どこに掲示さ

れて、どう申し込まれてきたのかが分からないことがあるので、その辺りがクリアになるといいと思う。

(宮川課長)

- 生涯学習の催しはさまざまな団体が主催しており、同じようなテーマであっても、公民館が主催、男女共や自治協などさまざまな地域団体の主催や公民館との共催など多様なかたちがあり、公民館を借りて民間のNPOや団体で開催ということもある。公民館の主催事業であれば、主な広報ルートは各区が毎月発行している公民館だよりだが、それ以外にも、学びのポータルサイトとして「まなびアイふくおか」を設けており、インターネット検索で情報をご覧になり参加する方もいる。市民センターの場合は、市政だより区版などの広報もあり、情報を届けるルートは一つではない。広報は多様な手段で行うのが望ましいということで、今回の提言においても情報提供の充実を掲げているところである。

(原委員)

- 今回の提言は、ホームページへの公開など、どのような使い方をされるのか。また、公民館などでさまざまな講演が行われているが、以前たまたま聞いてかなり良かったと思うことがあった。例えばZOOMなどを使ってもう少し手軽に参加できるような形式をとっていただければ、参加しやすくなると思う。

(宮川課長)

- 前回提言いただいたときもそうだったが、提言をいただいて今後どう生かすかが非常に大事になってくる。前回の提言内容を受けて、公民館職員や生涯学習に携わる区役所職員を対象に、社会教育委員の先生方による基礎研修を毎年行っており、かなり内容の濃いものになっている。こういった研修でも、この提言のマインドを伝えていくことができると思っている。もちろん今回の提言自体も公民館に周知することとしており、提言で示唆されている内容をどのように自分たちの館の運営に着地させていくか、今後の活動の大きなヒントになっていくのではないかと思う。また、公民館以外の市役所などに対しても周知する。このほか、学習情報を市民に伝えるため、今まで以上に積極的な情報発信などを行っていく。ZOOMについては、予算的なものやどのように扱うかといった課題はあるが、意識としては持っているので、今後出てくることもあるのではないかと思う。

(西村委員)

- 今回これだけよいものを作っていたし、講演会や学習会など素晴らしいものが前々からあったと思う。企画をされる段階から一生懸命取り組んでおられると思うが、毎回思うのが、お知らせがとても遅い。お知らせが来た時には申込みに関わなかったり、チラシを区役所などでもらった時には日にちが過ぎていたりという残念なことがあったので、やはり、ただ掲示するだけでは良い

ものかどうかわからないと思うし、お知らせをする段階からしっかりと届くような方法を考えていただくと意義のある機会をたくさん作れるのではないかと思う。

9 閉会

教育長閉会を宣告 10時48分